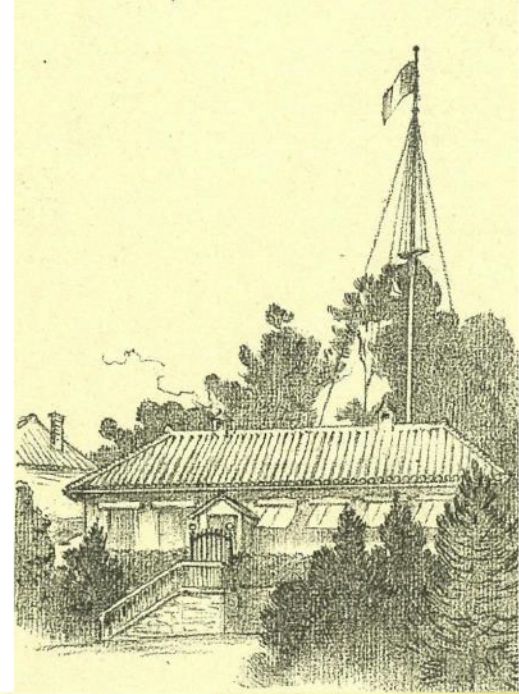


在長崎フランス領事館

日仏修好通商条約調印後、開港場となった長崎には大浦・東山手・南山手を中心に外国人居留地が造成されるとともに、フランス人が居留したこともあり、1863年から1870年までの期間、大浦42番地に領事館が設置された。領事はレオン・デュリが務めた。1886年に大浦12番地で領事館業務が再開されるも移転を繰り返し、1908年に閉鎖された。

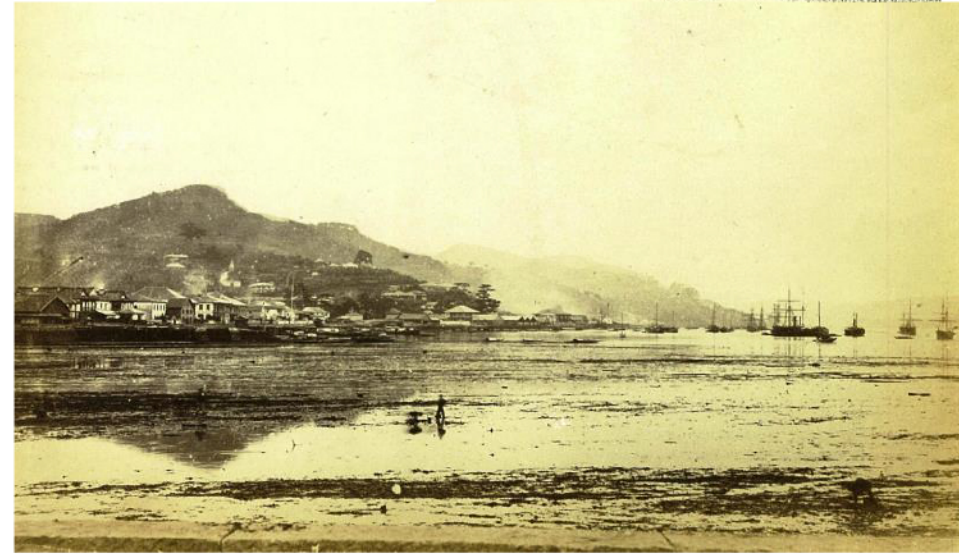
デュリは在長崎フランス領事として長崎でのフランス人の生活保護や貿易取引などの問題をめぐり、長崎奉行との折衝に奔走するなど多忙を極めた。1867年に開かれたパリ万国博覧会で徳川昭武を代表とする使節団が派遣された際には、デュリが一行を案内・通訳するなど、在長崎フランス領事館が日仏両国の関係構築のため、日夜奮闘していた様子を窺うことができる。



旧フランス領事館イラスト→
Collection Christian POLAK



↑長崎東山手風景図
長崎歴史文化博物館蔵



↑大浦・出島の眺め
Collection Christian POLAK